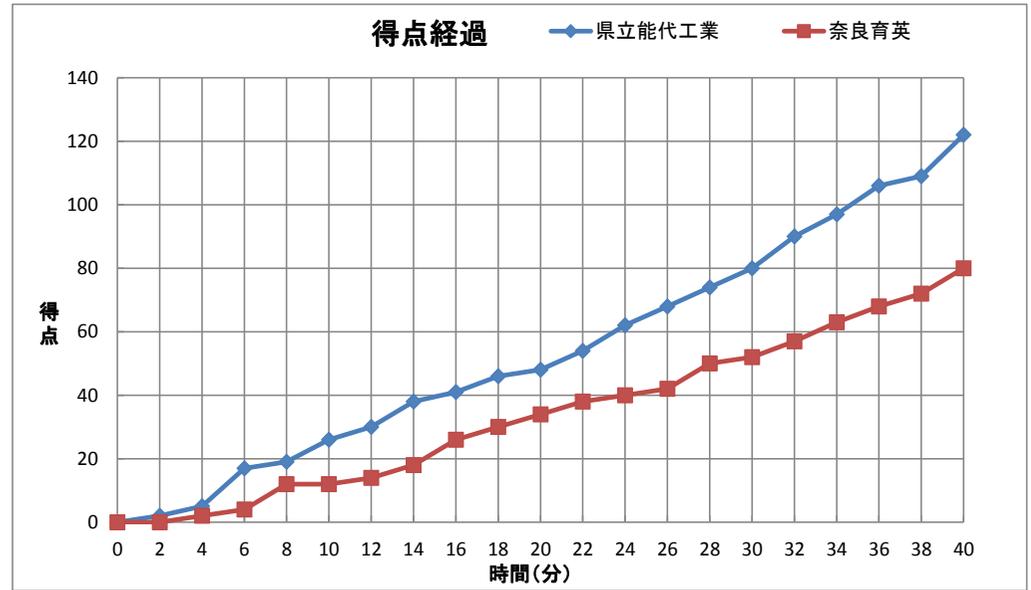




平成27年度全国高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会
第68回全国高等学校バスケットボール選手権大会

個人トータル表

男子		平成27年7月29日 11:10 開始															
1回戦		島津アリーナ		D													
◎ 県立能代工業 122 (秋田県)		<table border="1"> <tr><td>26</td><td>1st</td><td>12</td></tr> <tr><td>22</td><td>2nd</td><td>22</td></tr> <tr><td>32</td><td>3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>42</td><td>4th</td><td>28</td></tr> </table>		26	1st	12	22	2nd	22	32	3rd	18	42	4th	28	80 奈良育英 (奈良県)	
26	1st	12															
22	2nd	22															
32	3rd	18															
42	4th	28															
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
* 4	盛實 海翔	41	4	14	1	2	4	鷲本 将吾	2	0	1	0	0				
5	中村 碧杜	10	0	5	0	3	5	関本 和也	2	0	1	0	1				
* 6	斉藤 大輔	12	0	5	2	2	6	山本 拓哉	-	-	-	-	-				
* 7	小室 望海	14	2	4	0	1	7	木村 亮太	-	-	-	-	-				
* 8	大高 祐哉	9	1	3	0	0	8	小林 幹	0	0	0	0	0				
* 9	高畑 陸	12	0	6	0	4	* 9	中尾 征樹	7	1	1	2	3				
10	金久保 翔	4	0	2	0	2	* 10	山本 慎之介	19	0	7	5	4				
11	柴田 一真	2	0	0	2	0	* 11	松田 海渡	13	1	5	0	0				
12	富樫 優汰	2	0	1	0	0	* 12	大山 亮太	10	0	4	2	2				
13	植村 太一	13	3	2	0	2	* 13	西岡 晃司	27	3	7	4	3				
14	山田 終人	3	1	0	0	0	14	大越 遥	0	0	0	0	0				
15	児玉 海渡	-	-	-	-	-	15	児島 怜治	-	-	-	-	-				
コーチ	柴田 直宏					0	コーチ	大和 友哉					0				
Aコーチ	杉沢 政						Aコーチ	丸山 直樹									
合計		122	11	42	5	16	合計		80	5	26	13	13				
主審: 遠藤 大輔																	
副審: 江取 大介																	



CTO	1・2P	3・4P		OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	5:17	17:48	23:24	:	:	:	:

〔戦評〕

インターハイ常連校の能代工業と、20年ぶりのインターハイ出場となった奈良育英の一戦。能代工業はオールコートマンツーマンディフェンス、奈良育英はハーフコートマンツーマンディフェンスでゲームスタート。第1P、能代工業の得点からスタート。奈良育英のディフェンスに対して3Pシュートも積極的に打つことでディフェンスを引き寄せ、ドライブからの合わせで攻めこむ。対する奈良育英は少し硬さがみられるものの、#10のポストプレイを中心に展開する。ただ、能代工業の常にインターセプトを狙うディフェンスを攻めきれず、なかなかセットオフenseに持ち込めないまま14点差能代工業リードで終了。

第2P、硬さのとれてきた奈良育英は速いパス回しの中からノーマークを作り出し、ジャンプシュート、バックシュートで加点する。対する能代工業はトラベリングが多く、シュートチャンスを逃す。高さを生かしてリバウンドがよく取れるものの、多くのジャンプシュートがリングに嫌われ引き離せず、48対34の14点差能代工業リードで前半終了。

第3P、奈良育英の#10がポストアップ後、外に広がり3Pシュートも狙い始めるが得点につながらない。#11が懸命にボックスアウトをするものの、能代工業のボールに対する執着心になかなか、セカンドシュートのチャンスがつかめない。対する能代工業はトラベリングに対する修正もなされ、コンスタントに得点を重ねる。#4のポストプレイ、外角からのシュートがよく決まり、引き離しにかかり28点差能代工業リードで終了。

第4P、能代工業のワンパス速攻が面白いように決まる。一方疲れの見えはじめた奈良育英は、#12、#13の積極的なドライブでチャンスをうかがうものの万事休す。122対80の42点差で能代工業の勝利。

試合中、コート整備のために試合が一時中断した。能代工業は真っ先にコート整備に動いていた。この意識が強豪校といわれる要因の一つではないだろうか。また、奈良育英は2年生主体の若いチームでつかみ取ったインターハイ出場。この一戦を力に変えてぜひ次に生かしてほしい。両チームの健闘を讃えたい。

戦評: 村井 咲栄 記録: 南陽高校